

○写真-木本直哉
Naoya Kimoto

徳島三部作

9月初旬、台風9号からの東うねりが1週間に渡り、四国海部エリアにヒット。2〜3メートルのファンサイズから8〜10メートルのヒュージサイズまで、河口とリーフを舞台に、このエリアに育つキッズ、若手プロのスーパーアクション、そしてマリマウスフリーク達のハードコアなセッション、更にスウェルがマックスにのぼりつめると湧をむきだした、シークレットリーフでのヒュージラインナップの模様を3つのパートに分けてお届けしよう。題して徳島三部作。

the stunt

Kaishu
Tanaka

10年前、関西のサーフィンメッカである海部の目の前に、大阪から家族で引っ越し、明けも暮れも海部でサーフィンを楽しんできたカイショウも早や15歳。高校受験の勉強をする傍ら彼の部屋の間からは、常に海部の河口が見えるという好条件(?)の中で育ってきた。シャコタンスタイルながらキッズとは思えない、深いトリムターンからのパワフルなラインは、やはり強こつな因縁の波で育った本格派だ。コンペションでもその名を日本全国に轟かせながらも、チューブライディング、ビックウェイブアタック等、リアルサーファーならではのソウルをしっかりと核に持っている海部若手トップバッターの1人だ。





YUjirō Tsuji

生見ビーチで柔軟な下半身を活かしたトリッキーなサーフィンをいよいよ独自のスタイルで完成させてきたユージローだが、海部のレフトが決まると、まるで彼のブレイクランドかのように自由奔放に波の上をダンスしている様だ。彼独特のアーリーウープシークエンスは、フルアウトながら完璧にメイクしてしまっている。これだけのセンス、テクを持ちながら、コンペションで炸裂しないのが不思議なくらいである。しかし、彼の上手さは誰もが認める所であり、その才能が開花するの近い将来だと確信している。

